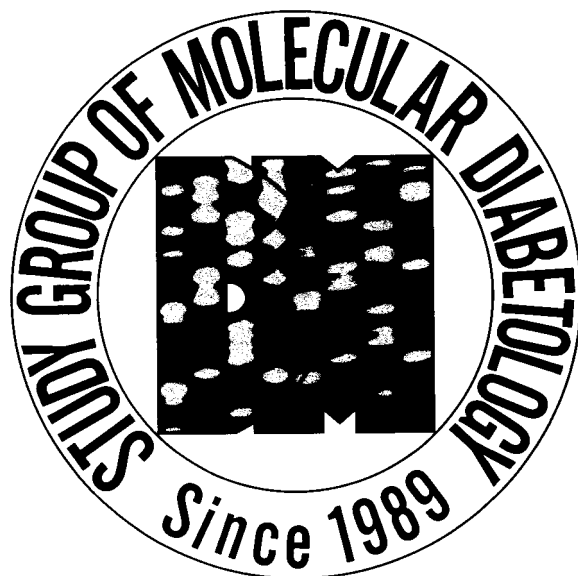


第 15 回 分子糖尿病学シンポジウム プログラム



会 期 2003 年 12 月 6 日(土) 8:30~17:00

会 場 熊本市産業文化会館
〒860-0806 熊本市花畑町 7 番 10 号
TEL:096-325-2311

代表世話人 荒木 栄一
(熊本大学大学院医学薬学研究部代謝内科学)

共 催 分子糖尿病学研究会
ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

後 援 日本糖尿病学会

※会館の都合により、会場への入場開始は 08 : 00 からとなります。

開会の辞

08:30~08:35

荒木栄一 (熊本大学 大学院医学薬学研究部 代謝内科学)

セッション1 08:35~09:40

座長 池上博司 (大阪大学 大学院医学系研究科 加齢医学)

1. 先天性全身性脂肪萎縮症における新しいセイピン遺伝子ホモ接合体変異の同定

京都大学大学院医学研究科内科学講座臨床病態医科学・内分泌代謝内科¹、東京医科歯科大学難治疾患研究所分子代謝医学分野²
日下部 徹¹、海老原 健¹、益崎裕章¹、中所英樹¹、宮澤 崇¹、宮永史子¹、田中智洋¹、小林 望¹、林 達也¹、細田公則¹、井上 元¹、小川佳宏²、中尾一和¹

2. ガングリオシド特異的形質膜シアリダーゼ (NEU3) 遺伝子とインスリン抵抗性

東北大学分子代謝病態学分野糖尿病代謝科¹、東北大学創生応用医学研究センター再生治療開発分野²、宮城県立がんセンター内科³、宮城県立がんセンター研究所生化学⁴

檜尾好徳¹、鈴木 進¹、平井完史¹、鈴木千登世¹、石原寿光¹、高橋和真¹、佐藤 謙¹、片桐秀樹²、佐々木明德³、秦 敬子⁴、和田 正⁴、山口壹範⁴、宮城妙子⁴、岡 芳知¹

3. FOXC2 遺伝子の体系的 SNP 同定及び 2 型糖尿病との関連解析

愛媛大学医学部臨床検査医学(糖尿病内科)¹、愛媛県立中央病院内科²、東京大学医学部人類遺伝学³

大澤春彦¹、大沼 裕¹、村上晶子¹、越智正昭¹、西宮達也¹、西田 互¹、柱本 満¹、加藤健一²、清水一紀²、藤井靖久²、大橋順³、牧野英一¹

4. UCP-2 遺伝子多型の 2 型糖尿病の病態に及ぼす影響

和歌山県立医科大学第一内科、同臨床検査医学¹

笹原美佳、西 理宏、川嶋弘道、上田量也、古田浩人、松本英作、英 肇、佐々木秀行、三家登喜夫¹、南條輝志男

5. 2 型糖尿病遺伝子の全ゲノム解析とコンジェニックマッピング：年齢依存的に作用が変化する遺伝子座の同定

大阪大学大学院医学系研究科加齢医学¹、愛知学院大学²

馬場谷 美知子¹、池上博司¹、藤澤智巳¹、野嶋孝次¹、馬場谷 成¹、井上かおり¹、柴田昌雄²、荻原俊男¹

セッション2 09:40~10:45

座長 三家登喜夫 (和歌山県立医科大学 臨床検査医学)

6. 膵臓前駆細胞から膵島前駆細胞への分化メカニズムの検討- AR42J-B13 細胞における neurogenin3 発現調節機構-

順天堂大学内科学代謝内分泌学講座、群馬大学生体調節研究所¹

荻原 健、綿田裕孝、菅野 玲、池田富貴、野見山崇、小島 至¹、河盛隆造

7. 成体マウス膵管細胞の単離培養とインスリン・アルブミン産生細胞への分化誘導の試み

大阪大学大学院医学系研究科幹細胞制御¹、大阪市立総合医療センター代謝内分泌内科²

山本恒彦^{1,2}、倭 英司¹、谷口秀典¹、下田雅史¹、田代 文¹、細井雅之²、佐藤利彦²、藤井 晁²、宮崎純一¹

8. マウス胎児肝におけるインスリン遺伝子 I と II の発現

東北大学大学院医学系研究科生物化学分野¹、先端再生生命科学 (江東微生物研究所) 寄附講座²

川口晶子¹、小野川 徹²、那谷耕司¹、秋山貴子^{1,2}、池田崇之¹、Nausheen J. Shermani¹、山内晶世^{1,2}、野口直哉¹、高沢 伸¹、岡本宏²

9. 膵における HNF4 α の意義- 膵型 HNF4 α isoform (HNF4 α 8) の機能解析

大阪大学大学院医学系研究科分子制御内科学

井原亜里砂、山縣和也、南茂隆生、福井健司、吉内一正、沖田考平、岩橋博見、松澤佑次、宮川潤一郎

10. 高脂肪食誘導性の膵 β 細胞過形成における IGF-1/IRS-2 経路の重要性- 遺伝子欠損マウスと DNA chip 解析を用いて-

東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科

窪田直人、寺内康夫、高本偉碩、門脇 孝

セッション3 10:45~11:50

座長 山田祐一郎 (京都大学 大学院医学研究科 糖尿病・栄養内科学)

11. Mutational AnalysisによるProhormone convertase 3におけるCatalytic-Pドメイン間疎水性結合の予測と解析
 阪南市立病院内科・糖尿病センター¹、和歌山県立医科大学第1内科²、シカゴ大学ハワードヒューズ医学研究所生化学・分子生物学³
 上田量也^{1,2}、Gregory M Lipkind³、Donald F. Steiner³、南條輝志男²
12. WFS1は小胞体ストレスにより転写レベルで調節される
 山口大学保健管理センター¹、山口大学大学院医学研究科生体シグナル解析医学講座²、京都大学社会健康医学系・健康要因学³、東北大学大学院医学系研究科内科病態学講座分子代謝病態学⁴
 植田浩平¹、湯尻俊昭²、竹田孔明²、田部勝也²、阿武孝敏²、秋山 優²、小泉昭夫³、岡 芳知⁴、谷澤幸生²
13. 時計関連遺伝子Cry1, Cry2ダブルノックアウトマウスにおける耐糖能、インスリン分泌に関する検討
 京都大学大学院医学研究科糖尿病・栄養内科学、京都大学放射線生物学研究センター¹
 池田弘毅、黒瀬 健、長嶋一昭、宮脇一真、月山克史、福島光夫、細川雅也、山田祐一郎、藤堂 剛¹、清野 裕
14. PACAPによる糖尿病発症進行抑制 - 膵β細胞特異的カルモデュリン過剰発現マウス(CaMTg)を用いた検討
 名古屋大学糖尿病内分泌内科、藤田保健衛生大学第一解剖¹、大分大学薬理学²
 三浦義孝、恒川 新、山本直樹、大磯ユタカ、千田隆夫¹、仁木一郎²
15. インスリン受容体(IR)ヘテロノックインマウスにおけるインスリン(Ins)抵抗性と代償性インスリン分泌に関する検討
 千葉大学大学院医学研究院細胞治療学¹、京都大学医学部附属病院糖尿病栄養内科²、社会保険船橋中央病院³、国保松戸市立病院⁴、千葉大学大学院医学研究院発生生物学⁵、東京都老人総合研究所分子遺伝学部門⁶、国保旭中央病院⁷
 荻野 淳¹、櫻井健一¹、石塚伸子²、関 直人³、八木一夫¹、鈴木義史⁴、古関明彦⁵、白澤卓二⁶、橋本尚武⁷、齋藤 康¹

昼食 11:50~12:40

特別講演 I 12:40~13:30
 座長 谷澤幸生 (山口大学 大学院医学研究科 生体シグナル解析医学 分子病態解析学)

“AGEと糖尿病合併症”

堀内正公 (熊本大学 大学院医学薬学研究部 病態生化学 教授)

セッション4 13:30~14:22
 座長 鈴木 進 (東北大学 大学院医学系研究科 分子代謝病態学分野・糖尿病代謝科)

16. 糖尿病性腎症発症進展におけるミトコンドリア由来活性酸素及びシクロオキシゲナーゼ-2活性化の意義
 熊本大学大学院医学薬学研究部代謝内科学
 切通伸介、西川武志、園田和洋、久木留大介、井本光次郎、田口哲也、松村 剛、瀬ノ口隆文、松尾和子、荒木栄一

17. Dominant-negative Pim-1による血管平滑筋細胞増殖抑制
 大阪大学大学院病態情報内科学
 片上直人、金藤秀明、河盛 段、大歳健太郎、五郎川伸一、坂本賢哉、馬屋原豊、松久宗英、山崎義光

18. 肝でのSHIP2の発現がインスリン作用に及ぼす影響の検討
 富山医科薬科大学第一内科¹、富山医科薬科大学臨床薬理学²
 福居和人¹、笹岡利安²、石原 元¹、和田 努¹、村上史峰¹、柳楽清文¹、薄井 勲¹、小林 正¹

19. 脂肪細胞のインスリン反応性獲得におけるセリンホスファターゼの意義
 滋賀医科大学内分泌代謝内科
 卯木 智、前川 聡、吉崎 健、Shi Kun、田尾ゆかり、江川克哉、柏木厚典

セッション5 14:22~15:27
 座長 門脇 孝 (東京大学 大学院医学系研究科 糖尿病・代謝内科)

20. 脂肪細胞の数とサイズを決定する細胞周期制御機構の糖代謝における重要性
 神戸大学大学院医学系研究科応用分子医学講座糖尿病代謝・消化器・腎臓病学分野¹、東北大学大学院医学系研究科附属創生応用医学研究センター発生分化解析分野²、九州大学生体防御医学研究所細胞機能制御学部門分子発現制御学分野³

中村武寛¹、阪上 浩¹、酒井太門¹、岡田 潮¹、岡田裕子¹、高島康弘¹、森 要之¹、中村恭子¹、小川 渉¹、中山啓子²、中山敬一³、春日雅人¹

21. 脂肪滴関連蛋白 ADRP トランスジェニックマウスの解析：細胞内脂肪滴蓄積の意義に関する検討

九州大学大学院医学研究院病態制御内科学

園田紀之、井口登與志、今村美菜子、森永秀孝、小林邦久、江藤 隆、佐藤直市、関口直孝、野村政壽、谷口 晋、生山祥一郎、名和田 新

22. 脂肪肝の病態におけるバイオシグナル- 核内転写因子型受容体、PPARs の新しい役割-

京都大学大学院医学研究科内科学講座内分泌代謝内科¹、東京医科歯科大学難治疾患研究所分子代謝医学分野²

田中智洋¹、益崎裕章¹、海老原 健¹、中所英樹¹、小川佳宏²、泰江慎太郎¹、宮永史子¹、宮澤 崇¹、日下部 徹¹、小林望美¹、林 達也¹、細田公則¹、井上 元¹、中尾一和¹

23. 代謝症候群は「細胞内クッシング症候群」か？- 各種リスクファクターの肝細胞ステロイド活性化酵素（11β-HSD1）発現に及ぼす効果

名古屋大学医学部附属病院検査部¹、病態代謝内科学²

岩崎泰正¹、高安 忍¹、浅井真人²、吉田昌則²、神林真知子¹

24. 肝における活性化 Akt 過剰発現による著明な低血糖、肝腫大、高中性脂肪血症と、SREBP-1 発現増加の関与

朝日生命成人病研究所¹、筑波大学医学部附属病院・代謝内分泌内科²、東京大学医学部附属病院・糖尿病代謝内科³、東北大学医学部附属病院・糖尿病代謝科⁴

小野 啓¹、島野 仁²、矢作直也³、片桐秀樹⁴、荻原健英⁴、迫田秀之¹、藤城 緑³、山田信博²、岡 芳知⁴、門脇 孝³、浅野知一郎³

休憩 15:27~15:45

特別講演 II 15:45~16:45

座長 荒木栄一（熊本大学 大学院医学薬学研究部 代謝内科学）

“Insulin Regulation of Gene Expression – A Genetic Analysis”

Joslin Diabetes Center, Harvard Medical School

President and Director, Mary K. Iacocca Professor, C. Ronald Kahn, M.D.

分子糖尿病学研究奨励賞 発表／授与 16:45~16:55

荒木栄一（熊本大学 大学院医学薬学研究部 代謝内科学）

閉会の辞 16:55~17:00

谷澤幸生（山口大学 大学院医学研究科 生体シグナル解析医学 分子病態解析学）